

【取組内容①】 学習支援ソフト等を活用した主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践

I 授業におけるGIGA端末の主な活用場面

◆ 学習課題に取り組む

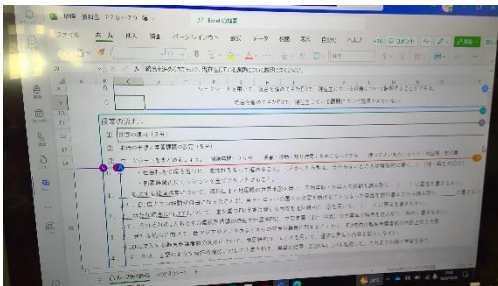
- ① ポートフォリオ・資料を各自のGIGA端末に配信する
- ② 検索エンジンの活用する
- ③ 自分の考えを表現する

◆ 自分の考えを表現する 【クラウドの活用①】 学習活動支援ソフト等を活用した取組

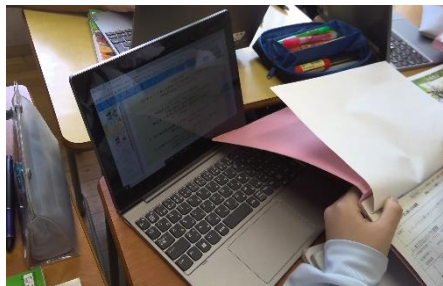
◆ 自らの学びを振り返る 【クラウドの活用②】 Teams・Excel・Forms等を活用した取組

II 授業実践【1年社会科】

【導入場面1】 Teamsで共有しているポートフォリオを確認し、本時の流れを各自で確認します。



【導入場面2】 問いに答えながら、前時に学んだことを復習します。



【導入場面3】 「本時の学習課題」に対する予想を考える手だてとなる資料を配信します。



【展開場面1】 学習支援ソフトより各自のタブレット端末に配信された資料を活用して、学習課題に取り組みます。



【展開場面2】 配信された資料や検索エンジンを利用して、新しく学ぶ語句の意味や興味をもった事柄について調べます。



【取組内容①】 学習活動支援ソフト等を活用した主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践

【展開場面3】 カメラ機能を活用することで、他の班とも考えを共有することができます。



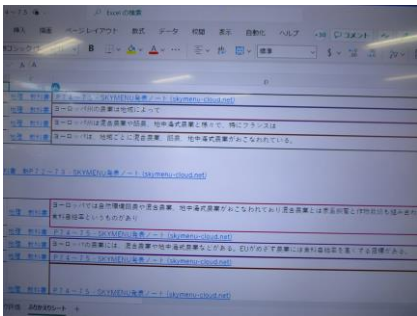
【展開場面4】 自分の考えをわかりやすく表現するために、配信されている資料を編集しています。



【展開場面5】 級友と学び合いをしたり、黒板を使って全体共有をおこなったりして、更に学びを深めます。



【終末場面】 TeamsにExcelの「振り返りシート」を添付して配信することにより、リアルタイムで各自の振り返りを共有することができます。



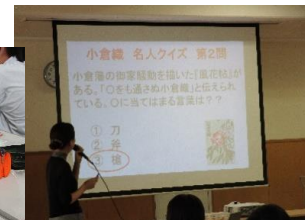
Ⅲ 実践を通して

- ◇ 県外視察で学んだGIGA端末の効果的な活用に関する研修、学んだことを取り入れた授業実践、さらに公開授業など、研究主任を中心とした部会が積極的に情報を発信している。こまめに情報発信を行うことが活用のヒントとなり、自分なりに活用方法をアレンジするなど、教員のチャレンジの幅が広がっている。
- ◇ 授業での活用や学年の取組（1年生：小倉城下班別研修、2年生：修学旅行新聞など）でGIGA端末を活用する場面が増えている。生徒たちは他者との意見共有の場面や掲示物等の編集のしやすさなどで、端末の活用には有用性を感じているようである。



班別研修の取組（1年生）

音読の取組（国語科）



小倉織の授業（家庭科）

【取組内容④】 TeamsやForms等を活用した業務改善の取組

【会議のDX化（実践1）職員会議について】

- ◆企画委員会のチャンネル作成
提案者より文書を配信。事前に目を通す。企画委員会では質問や意見を出し合う。提案者は、提案文書を加筆・修正する。
- ◆職員会議のチャンネル作成
提案者より加筆・修正した文書を配信。事前に目を通す。職員会議では質問・意見を出し合う。

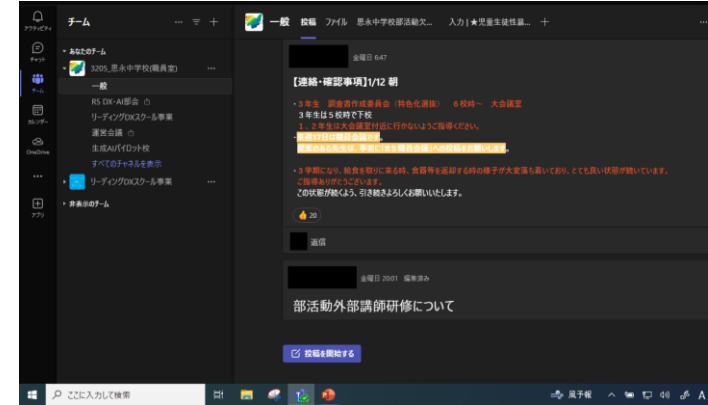
【会議のDX化（実践2）校務分掌の学期末反省について】

- ① 校務分掌ごとにチャットグループを作成し（校務分掌の長が設定）、職員会議一週間前までを目途に、チャットを活用して分掌部会を実施する。
- ② 教務主任が作成した「振り返り」を記入する文書データをTeamsで共有する。校務分掌の長は、分掌部会を踏まえて「振り返り」を記入する。
- ③ 職員会議実施日までに、職員は各分掌の「振り返り」に目を通し、各分掌への質問・意見・要望・申し送り事項などを共有しているファイルに入力する。
- ④ 職員会議当日は、事前に入力された意見等のうち、審議の必要あるものを厳選して議論する。

【研修のDX化（実践）小中合同研修会について】

昨年度より、中学校区の各学校の職員が4つの分科会のいずれかに所属して「思永中学校区児童生徒のくらしの約束」について見直しを行っている。また、各部会にて学校の状況や取組について交流・情報交換を行っている。本年度は本校が研修の担当校であり、次の手順で研修を実施した。

- ① 職員は各部会・分科会それぞれの教室に集まる。
- ② Teamsでのオンライン会議を利用して全体会を実施。その後、各部会にて話し合いを行う。
- ③ 各部会で話し合った内容について、Teamsで配信している集約用紙に記入する。各分科会・部会で、会議終了時に他の部会の検討内容を共有する。



小中合同研修会の部会

管理職部会

教務主任部会

分科会

くらしの約束1

くらしの約束2

くらしの約束3

くらしの約束4

養護教諭部会

特別支援

コーディネーター部会

【取組内容④】 TeamsやForms等を活用した業務改善の取組

【その他：（実践1）生活アンケートについて】

毎月末実施している全校生徒対象の「生活アンケート」をFormsを活用して実施している。専任生徒指導主事より全校生徒に「生活アンケート」を配信。情報の集約・共有がリアルタイムで素早くできるため、早期対応・早期解決につながっている。

【その他：（実践2）部活動の欠席連絡について】

本校では、平日は19：00より、土日・祝日は終日、留守電対応を実施している。そのため、土日・祝日の部活動の欠席連絡はFormsを活用している。

思永中学校部活動欠席申請

保護者が必ず申請してください。

* 必須

1. 欠席する日*

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)

2. 所属部活動名*

国々の選択

3. 学年*

【校務のDX化の実践を通して】 ～ポイント：「時代の流れを自覚する」「クラウドの活用に慣れる」～

「会議の時間の短縮」「事前に十分議論し、よりよい実施案にする」を目的として会議のDX化に取り組んだ。文書を配信することで、ペーパーレスにも効果があった。

《職員の声》

- 部活動の指導で職員会議に出席できなくても後から確認できるようになった。わからなくなった時なども何度も資料を確認でき、必要に応じて印刷もできる。（研修も同様に、参加できなかった職員に研修内容を周知することができる。）
- スムーズに会議ができています。効率化が図れている。
- クラウドの活用にまだ十分慣れていないため、会議中に資料を探せないこともあった。送られてくる文書が多いため、必要なときに探しにくいことがある。
- 事前の資料の確認や提案に対する意見を事前に出すことはなかなか難しい。また、行事や取組等を実施する直前になって意見や検討事項が出ることが多いので、提案事項の決定の前に「熟議する」という流れが定着するとよい。
- 会議は問題ないが、研修は慣れないので、もう少し手順の説明が欲しい。

会議や研修のDX化について、最終的には肯定的な意見が多かった。当初は、会議前に配信した文書をどれだけの職員が確認しているのか等を把握するために、繰り返し文書の確認を呼びかけた。このような取組の中で、職員からは「各自が時代の流れ（DX化の推進）を自覚する必要がある」という意見が出た。また、クラウドの活用が難しいと感じている職員においても「会議や研修方法に慣れる」ことを意識する姿が見られるようになった。このような職員の声や姿勢に対して、会議や研修のルールを作成したり、サポート体制を整えたりすることで、さらなるDX化の推進にチャレンジしたい。

【取組内容⑤】 その他（個に応じた補充学習を支援するためのドリルアプリの活用）

本年度の取組：デジタルドリルを活用して、個に応じた補充学習を支援する。

【個に応じた支援につなげる】

- ◇ 1年数学科では、年度途中より家庭学習においてデジタルドリルの問題を活用することにした。プリント作成・印刷よりも、どんな解答をしているか、どこでつまづいているか、何回同じ問題にチャレンジしているか等を履歴で確認して、個に応じた支援をおこなうことに時間をかけるようにした。
- ◇ 2年国語科では、授業の導入場面（授業のウォーミングアップ）と終末場面（学習内容の確かめ）でデジタルドリルを活用した。


【家庭での活用を推進するための生徒証の工夫】

生徒番号は
タブレットのID

生徒証	
No h1234567 令和〇年度入学	
氏名 ○○ ○○	
上記の者は本校生徒であることを証明する	
令和〇年〇月未	北九州市小倉北区大門1-5-1
<貸し借り厳禁>	北九州市立思永中学校長

裏面にデジタルドリルの二次元コードを印刷することで、家庭の端末での活用を促す。

ドリルアプリ



2学期末に実施した生徒アンケート「タブレットやパソコンを使った学習の中で印象に残ったもの（楽しかった・便利だった・やってよかった、など）」について記述する問いに対して「調べ学習」「栽培の記録（技術）」「プレゼンテーションの作成」とともに、「デジタルドリル」についても記述があった。自らの課題を踏まえて「書く活動（プリント学習）」も含め、主体的に補充学習に取り組むことができるよう、今後も個に応じた支援を充実させたい。